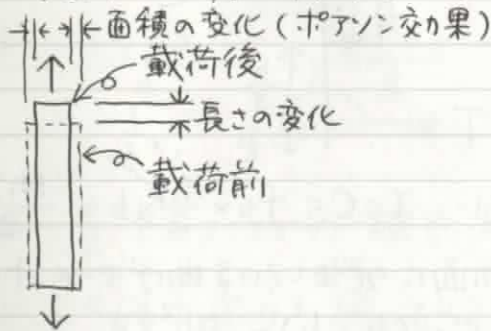


公称ひずみと真ひずみ、公称応力と真応力、

$$\text{ひずみ} = \frac{\text{変形量}}{\text{長さ}} \quad \text{応力} = \frac{\text{力}}{\text{面積}}$$

しかし、実際には力が作用すると、長さや面積が変化する。



載荷前の長さ、面積を使って求めたひずみ、応力

⇒ 公称ひずみ、公称応力、

長さや面積が定数なので、扱いやすい。変形の小さい材料なら十分。

載荷中に変化する長さ、面積を使って求めたひずみ、応力、

⇒ 真ひずみ、真応力、

変形量が多い場合に用いる。